

発行：日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)
 会長：横山 栄二
 事務局：〒305 つくば市天王台 1-1-1
 筑波大学社会工学系 池田研究室気付 発行責任者・事務局担当理事
 TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849 池田 三郎

-- 目次 --

1. 第4回研究発表会のプログラムと研究発表の募集
2. 年次総会報告
3. 第7回理事会報告
4. 春季講演シンポジウムの報告
5. 学会誌第3号の内容
6. 事務局だより
 - 6.1 会費納入のお願い
 - 6.2 SRAニュース
7. 新会員紹介

1. 第4回研究発表会のプログラムと講演発表の募集

日本リスク研究学会の第4回研究発表会の日程と講演発表募集は前回のNewsLetter3-1でお知らせしましたが、このたび、下記のようなプログラムと日程が決まりました。今回の学会は11月29日と30日の2日間の日程を組みましたので奮ってご参加下さい。特別講演として国立公衆衛生院の田中勝氏による「廃棄物処理におけるリスク管理」をお願いし、それに関連して「リスクアセスメントを考慮した最終処分計画」と題してシンポジウムを企画しました。その他1つの企画セッションを含む3つのセッション枠を設けました。今回は一般発表のための時間を十分に設けてありますので、会員の内外を問わず、リスク研究に関するアイデアや視点、実施例についての意見交換や技法開発の試みのご発表を歓迎いたします。

- (1) 日時：1990年11月29日(金)
11月30日(土)
- (2) 場所：(社)土木学会講堂
(東京都新宿区四谷一丁目無番地：JR中央線四谷下車徒歩5分)
- (3) プログラム
11月29日(金)
 - 9:30 - 12:00 一般セッションI (リスク評価と管理に係わる発表)
 - 13:00 - 14:00
特別講演 廃棄物処理におけるリスク管理、田中 勝(国立公衆衛生院)
 - 14:00 - 17:00
シンポジウム及び討論会(リスクアセスメントを考慮した最終処分計画)
総合司会 池田三郎、田中 勝

発表者・パネラー

中村正久（滋賀県琵琶湖研究所）：リスク管理と社会的意思決定
盛岡 通（大阪大学）：環境リスク診断
森沢眞輔（京都大学）：リスク同定と評価の試み
古市 徹（国立公衆衛生院）：環境リスクを配慮した処分場立地計画論
懇親会

17:10 -
11月30日(土)

9:30 - 12:00 一般セッション I I（リスク評価と管理に係わる発表）

13:00 - 16:00 企画セッション

（モラル・ハザードと保険、モラル・リスクと科学技術の将来など）

- (4) 研究発表のテーマとしては、リスク研究に関するものであれば、特に分野を問いませんが、各セッション共に関連する事例研究などは歓迎します。研究発表は1人20分程度、討議10分程度を考えていますが、発表件数により変更があることをあらかじめお断わりいたします。
- (5) 発表申込み締切：9月14日（土）
- (6) 発表を希望される方は、最終頁に添付の申込み用紙に、氏名、ご希望の発表のセッション名、研究の概要（400字程度）等をご記入の上、事務局までお送り下さい。
〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 社会工学系
池田研究室気付 日本リスク研究学会事務局
なお、研究発表のプログラム上の制約から、御希望にそえないこともあることをあらかじめお断わりすると共に、発表の採択については実行委員会に一任下さい。
- (7) 発表原稿締切：10月30日（金）必着（規定の書式を使用）
- (8) 講演要旨集：発表原稿は講演要旨集として発行しますので、必ずワープロにて原稿を作成していただきますようお願いいたします。原稿は1行48字で42行、1頁あたり2016字にて4-6頁でA4用紙に仕上げただけであれば、そのままオフセット印刷を効率よく進めることができますので、御協力のほどをお願い申し上げます。活字10.5ポイント（5号級）、文字ピッチ3/20インチ（3.6mm）、行間ピッチ1/4インチ（6.0mm）を基本にいたしますが、原稿を約80%に縮小することを留意して図表などを作成して下さるようお願いいたします。
- (9) 参加費：3,000円（予定）（講演要旨集、会場費を含む）

2. 年次総会報告

年次総会は第3回春季講演シンポジウムと併せて下記の要領で開催されました。
総会は30名の出席と125名の委任状を得て成立し（定足数120名；6月1日現在の会員数240名の過半数）、下記の3件の議案（1990年度決算、1991年度事業計画、1991年度予算）の審議を行い、全議案ともに成立しました。
承認されました各議案は以下のとおりです。

日時：6月29日（土）午後12時—12時45分

場所：東京大学山上会館（講演会と同一会場）

議事：(1) 会長（横山栄二）挨拶

- (2) 審議 議案1：1990年度決算
議案2：1991年度事業計画
議案3：1991年度予算

議案1 1990年度決算案(1990年4月1日-1991年3月31日)

(1) 収入の部

科目	予算	決算	増減
1. 会費収入	1,345,000	1,317,000	-28,000
正会員 (240)	960,000	(228) 912,000	
準会員 (10)	25,000	(6) 15,000	
賛助会員 (12)	360,000	(13) 390,000	
2. 事業収入	300,000	264,000	-36,000
研究発表会参加費	300,000	264,000	
3. その他の収入	150,000	137,515	-12,485
	(学会誌・要旨集売却)		
4. 前年度繰越	9,799	9,799	
収入合計	1,804,799	1,728,314	-76,485

(2) 支出の部

科目	予算	決算	増減
1. 学会運営事務費	390,000	360,312	-29,688
複写費	40,000	23,696	
通信費	70,000	76,808	
事務補助謝金	180,000	190,000	
(3日x12月x5,000円)			
消耗品	80,000	47,696	
分担金	20,000	10,412	
振替手数料	0	11,700	
2. 機関誌	880,000	838,426	-41,574
News letter印刷	70,000	64,456	
送料・通信費	140,000	155,970	
学会誌発行	670,000	618,000	
3. 事業費	510,000	529,440	+19,440
研究発表会			
印刷代	100,000	132,500	
会場費	10,000	57,742	
人件費	40,000	25,500	
講師旅費	100,000	106,000	
総会・講演会			
講師旅費・謝金	180,000	140,000	
人件費	50,000	28,000	
会合費	30,000	39,698	
4. 予備費	24,799	136	-24,663
支出合計	1,804,799	1,728,314	-76,485

注) 以上の決算は学会監事 内山巖雄氏による会計監査の承認を受けました。

議案2 1991年度事業計画

- (1) 研究発表会またはシンポジウムの開催について
1. 第4回研究発表会を次の通り開催する。
 日時：1991年11月29(金), 30(土) 10:00-17:00
 場所：(社)土木学会講堂(東京都新宿区四谷)
 特別テーマ：モラル・ハザードと保険、モラル・リスクと科学技術
 廃棄物処理とリスク
 2. 第5回春季講演シンポジウムの開催
 日時：1992年6月頃の予定
- (2) 学会誌、ニュースレターの刊行について
1. 研究発表会、講演会(シンポジウム)の成果を中心に学会誌を年1回発行。
 2. 「ニュースレター」を会員の交流と研究紹介を兼ねて年4回程度発行
 3. 研究発表会では講演論文集の刊行。
- (3) 運営に関する会議について
1. 第5回通常総会を1992年6月頃に開催する。
 2. 必要に応じて理事会を開催する。
- (4) その他
1. 個人会員、賛助会員の拡大につとめる。
 2. SRA(親学会)との交流に努めると共に、国内関連学協会との協力を深る。
 3. リスク分析・評価・管理に関する講習会・出版等の事業を行う。

議案3 1991年度予算案(1991年4月1日-1992年3月31日)

(1) 収入の部

科目	予算	前年度	増減
1. 会費収入	1,505,000	1,345,000	+160,000
正会員 (250)	1,000,000	(240) 960,000	
準会員 (10)	25,000	(10) 25,000	
賛助会員 (16)	480,000	(12) 360,000	
2. 事業収入	330,000	300,000	+30,000
研究発表会参加費	330,000		
(要旨集代含 3,000円x110人)			
3. その他の収入	150,000	150,000	+0
(学会誌・要旨集売却)			
4. 前年度繰越	136	9,799	-9,663
収入合計	1,985,136	1,804,799	+180,337

(2) 支出の部

科目	予算	前年度	増減
1. 学会運営事務費	445,000	390,000	+55,000
複写費	40,000	40,000	
通信費	80,000	70,000	
事務補助謝金 (4日x12ヶ月x5,000円)	240,000	180,000	
消耗品	60,000	80,000	
分担金	10,000	2,000	
振替手数料	15,000	0	
2. 機関誌	880,000	880,000	0
News letter印刷	70,000	70,000	
送料・通信費	160,000	140,000	
学会誌発行	650,000	670,000	
3. 事業費	640,000	510,000	+130,000
研究発表会			
印刷代	120,000	100,000	
会場準備費	50,000	10,000	
人件費	30,000	40,000	
講師旅費	180,000	100,000	
総会・講演会			
講師旅費・謝金	150,000	180,000	
人件費	20,000	50,000	
会場準備費	50,000	0	
会合費	40,000	30,000	
4. 予備費	20,136	24,799	-4,663
支出合計	1,985,136	1,804,799	+180,337

3. 第7回理事会議事録

日時： 1991年 6月29日

場所： 東京大学原子力研究総合センター5階第2会議室

出席者：横山栄二、朝見行弘、天野博正、池田三朗、石崎勝義、内山巖雄監事、大西一之
(鈴木 治代理)、草間朋子、小林定喜、田中 勝、各理事(委任状6通)、中村 豊
(事務局)

理事会議事録の概要

(1) 前回議事録の確認

確認された。

(2) 新会員の承認

資料2にもとづいて池田理事(事務局)から説明があり、正会員16名および4社の賛助
会員の入会が承認された。

(3) 第4回総会議案

・1990年度決算案

承認された。

・ 1991年度事業計画

年2回の学会誌発行にはあと50-60万円の予算増加が必要なので、賛助会員からの会費を2口にしていただくことにしてはどうかという事務局からの提案があった(規約上問題はないと思われる)。それに対し、何口にするかは賛助会員それぞれの判断で増口をお願いすることとなった。

草間理事より、事業費を増やすためならば、今回のような講演シンポジウムにも実費として参加費を徴収してもよいのではないかという提案があった。このことに関しては結論は先にのぼすこととなった。

盛岡理事(書面)からリスクに関する用語集やテキストをつくるワーキング・グループを作る提案があり、その世話人となってもよいことが池田理事より報告され、承認された。このことに関連してリスク学会へ委託研究費という形で援助することが可能であることが天野理事から表明された。

・ 1991年度予算案

承認された。

(4) 第4回研究発表会の企画について

田中理事より廃棄物関連のリスク問題(厚生省から土木学会への委託による)に関する報告書にもとづいて、1セッション設け、田中理事が総合講演を行い、個々のトピックは各研究者をお願いすることが報告された。また、このセッションには半日必要であり、日程は11月29日が望ましいことも報告された。

事務局より、酒井理事はモラル・ハザードと保険、広瀬理事はモラル・リスクと科学技術の将来というテーマでセッションを企画中であることが報告された。

3つの企画案が出ているが、一般参加者の興味を引くためにもテーマを絞ったほうがよいのではないか。また、研究発表を1日にして、他の1日を企画案のシンポジウムとパネルディスカッションにしたほうがよいのではないかという意見も出された。しかし、現状では、研究発表もこちらから働きかけて集める状況であるので、一般研究のための時間を今から十分取っておくことは困難であることが横山会長から指摘された。以上を踏まえ、理事の方々にご自分の周辺で誰か一般研究の発表ができる人を1件以上探していただき、一般研究発表のセッションを充実させることになった。また、酒井理事と広瀬理事の企画に関しては統合するとか、内容的にもう少し事務局で調整することとなった。

(5) 学会誌第3号について

解説論文、寄稿論文として投稿していただけるという了解はすべての著者から得ているが、まだ、事務局に届いている論文数が非常に少ないため、学会誌の発行が例年より多少遅れることが事務局より報告された。

会員各自の研究紹介等を研究短信として投稿していただくことを、ニュースレターをお願いしてきたが、まだほとんど集まらないので、まず、理事の方々に率先して書いていただくこととなった。学会役員の研究分野の紹介を兼ねて学会誌3号に解説または寄稿論文を出される理事以外の理事の方々には8月中旬までに原稿をお願いすることとなった。

(6) 1992年度春期講演会と研究発表会について

春期講演会ではPLに限らずに企業のリスクに関する企画を朝見理事、鈴木理事(大西氏代理出席)をお願いする事となった。

研究発表会は京都で行い、木下理事、吉川肇子先生(京都学園大)に企画をお願いする事となった。また、盛岡理事、岡田憲夫先生(京大)にも協力をお願いする事となった。

4. 春期講演シンポジウムの報告

第4回春季講演シンポジウムについて —エネルギー問題をリスクの視点から考える—

1991年6月29日、東京大学山上会館（東京都文京区本郷）において標記のテーマの特別講演およびシンポジウムが開催された。工学、医学、社会科学などさまざまな領域の関係者、約80名が参加し熱心な討論が行なわれた。

特別講演は、天野博正氏（電中研）の司会で、「エネルギー問題におけるさまざまなリスク」の演題で茅陽一氏（東大）が、「原子力分野におけるPSA研究の現状と課題」で阿部清治氏が講演をされた。茅陽一氏は、我が国で今まで行われてきた公害対策の大部分はエネルギーに関連したものであったとし、エネルギーに対する安全対策の考え方、方策などを最近の地球環境問題なども交えて話された。リスクに伴う不確実性への対処が安全対策であるが、エネルギー問題、とくに原子力エネルギーについてはリスクアパーションの概念が強く働いてきたことを指摘された。

阿部氏は、原子力発電所の安全性の解析手法としてのPSA（確率論的安全解析）について、その目的、特徴、開発の推移などについて最近の話題を含めて話され、PSAの安全解析の視点からは、人的要因の問題、放射線の健康影響、地震などの外的事象の取扱いなどが今後の課題であると述べられた。

パネルディスカッションは、大塚益比古氏（エネルギー総合工学研究所）の司会で、原子力発電サイクルとくに発電炉におけるリスクについて近藤駿介氏（東大）、化石燃料とリスクについて谷口武俊氏（エネルギー総合工学研究所）、環境安全の視点からとらえたリスクについて松原純子氏（東大）、エネルギー問題とリスクについて末次克彦氏（日経新聞）の4人のパネラーからの問題提起の後に、パネラー同志およびフロアーも交えた討議が行なわれた。

エネルギー問題をリスクの視点からみた場合に、リスク解析・評価、リスク認知などリスクに関連するさまざまな面で原子力エネルギーは、化石エネルギーなどとは違った状況にある。いずれにしても、我が国の国民性を考慮したうえでのリスク認知のための検討が重要であることが各演者から発言された。この点に関して、リスク研究学会として、今後、どのような形で係われるか、あるいは、係わる必要があるのかについての議論が別途必要とされるのではないかと。

最近になって、エネルギー問題も地球環境の視点から社会的にクローズアップされているが、このような視点での展開は、研究者の間では従来から継続して行われてきたことであり今に始まったことではない。しかし、自然科学の関係者が社会科学の視点を、社会科学の関係者が自然科学的な認識を持つことが以前にも増して重要となってきており、リスク研究学会のように社会との接点が大い研究領域ではとくにそうである。このような点からも、今回、テーマとして取上げられたエネルギー問題は時宜を得ていたように思われる。

特別講演およびシンポジウムの詳細については学会誌（第3巻1号）に掲載の予定である。
（東大 草間 朋子）

5. 学会誌題3号の内容

リスク研究（日本リスク研究学会）第3巻の内容（予定）

1. 巻頭論文：化学物質のリスク管理の国際動向：大島輝夫（日本化学物質安全情報センター）
2. 第3回研究発表会の解説：
 - (1) リスク費用分析・便益分析レビュー：酒井泰弘（筑波大）
 - (2) 事前対応型リスク管理レビュー：北島能房（筑波大）
 - (3) リスク評価と基礎科学の接点レビュー：林 祐造（国立衛生試験所）（予定）
 - (4) 製造物責任とリスクの分散レビュー：朝見行弘（福岡大）（予定）
3. パネル討論会（エネルギー・リスクをめぐって）の講演及び討論
4. 寄稿論文（第3回研究発表会研究報告を中心として）
 - (1) 環境のリスク認知におよぼす知識の役割：広瀬弘忠（東京女子大）
 - (2) リスク学（Riskology）の概念及び体系の構築：
佐成重範（元食品薬品安全センター）
 - (3) 都市域における水媒介リスク：秋山紀子（青山学院短大）
 - (4) リスク情報提供効果の計測－医薬品リスクの場合：池田三郎（筑波大）、西村
周三（京都大）、盛岡通（大阪大）、山本康正
 - (5) 農薬用化学物質の食品経由摂取によるリスク評価の試み：関沢純（国立衛生
試験所）
 - (6) 製造物責任保険によるリスク分散：栗山泰史（安田総合研究所）（予定）
 - (7) 不完全情報下における製造物責任：中島巖（専修大）
5. 研究論文：数篇（現在3編が査読手続き中）
6. 研究短信
7. 事務局便り（総会、理事会報告、会員状況、新会員名簿）

6. 事務局だより

6.1 会費納入のお願い

当学会は未だ財政的基盤は弱体ですので会費の早期納入をお願いいたします。すでに大多数の会員の方々から納入していただいておりますが、未納の方は送付済みの郵便振替用紙にて、学会費として

正会員（国際、国内）	4,000円
準会員（学生）	2,500円
賛助会員	30,000円

を下記の振込先までご送金下さいますようお願いいたします。なお、通信経費の節約のため学会の領収書は発行しませんが、必要な方はお知らせください。

振込先：郵便振替番号： 宇都宮 3-11964
日本リスク研究学会
305 つくば市天王台1-1-1
筑波大学社会工学系 池田研究室気付

Risk
News Letter
Jan. '91

1990-91 SRA Officers and Councilors

(Society for Risk Analysis)

The names and addresses of the SRA officers and councilors for 1990-91 are as follows:

President: Curtis C. Travis, Office of Risk Analysis, Health & Safety Research Division, Oak Ridge National Laboratory, M/S 6109, Building 4500S, Room S204, P.O. Box 2008, Oak Ridge, Tennessee 37831-6109 (Phone 615-576-2107; FAX 615-574-9887; FTS 626-2107; Secretary [Denice Henderson] 615-576-2109).

President-Elect: D. Warner North, Decision Focus Incorporated, 4984 El Comino Real, Los Altos, California 94022 (Phone 415-960-3450; FAX 415-960-3656; Secretary [Sheila Mattaliano], 415-960-3923).

Secretary: Vlasta Molak, Bio-Technology Forum, Inc., 8987 Cottillion Drive, Cincinnati, Ohio 45231 (Phone 513-533-8334; FAX 513-533-8560).

Treasurer: Raymond F. Boykin, California State University, Chico, College of Business, Chico, California 95929-0011 (Phone 916-898-5895; FAX 916-898-6824; Secretary [Geri Drivon] 916-898-6463).

Immediate Past President: B. John Garrick, PLG, Inc., 4590 MacArthur

Blvd., Suite 400, Newport Beach, California 92660-2027 (Phone 714-833-2020; FAX 714-833-2085; Assistant [Marcia Lawson] 714-833-2020).

Executive Secretary: Richard J. Burk, Jr., 8000 Westpark Drive, Suite 130, McLean, Virginia 22102 (Phone 703-790-1745; FAX 703-790-9063).

Councilor, 1991: Joellen Lewtas, Health Effects Research Laboratory, U.S. Environmental Protection Agency, Research Triangle Park, North Carolina 27711 (Phone 919-541-3849; FAX 919-541-0694).

Councilor, 1991: Catherine St. Hilaire, Hershey Foods Corporation, Corporate Administrative Center, Government Relations Department, P.O. Box 814, Hershey, Pennsylvania 17033-0814 (Phone 717-534-7547; FAX 717-534-7319).

Councilor, 1991: James D. Wilson, Monsanto Company, 800 N. Lindbergh Boulevard, St. Louis, Missouri 63167 (Phone 314-694-8879; FAX 314-694-6858).

Councilor, 1992: R.A. (Tony) Cox, Four Elements Limited, 25 Victoria Street, London SW1H 0EX, England

(Phone 011-44-1-233-1088; FAX 011-44-1-233-2152).

Councilor, 1992: Peter Barton Hutt, Covington & Burling, 1201 Pennsylvania Avenue NW, Washington, DC 20004 (Phone 202-662-5522; FAX 202-662-6291).

Councilor, 1992: Roger E. Kasperson, Center for Technology, Environment, and Development, Clark University, 950 Main Street, Worcester, Massachusetts 01610 (Phone 508-793-7665; FAX 508-793-7780).

Councilor, 1993: Ann Fisher, Pennsylvania State University, 8 Weaver Building, University Park, Pennsylvania 16802 (Phone 814-865-9541; FAX 814-865-3746).

Councilor, 1993: Saburo Ikeda, Institute of Socio-Economic Planning, The University of Tsukuba, 1-1-1 Tennoudai, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan (Phone 0298-53-5380; FAX 0298-55-3849).

Councilor, 1993: David B. McCallum, Center for Risk Communication, Columbia University, 2121 Wisconsin Avenue NW, Washington, DC 20007 (Phone 202-342-7573; FAX 202-333-6316).

News from SRA-Europe

Pieter Jan Stallen, president of SRA-Europe, reports that the section gained 40 new members, all from Eastern Europe, as a result of the Kiev conference in November, 1990 [see January 1991 issue of RISK newsletter]. The section also has eight sustaining members for 1991:

Dutch Environmental Liability Pool
Ernst Basler and Partners, Switzerland
General Electric Plastics
Norsk Hydro
Netherland Organisation for Applied Scientific Research
Rhône Poulenc
Technica, United Kingdom
Zürich Insurance Company.

Elections Scheduled

The ballot for the first election of the SRA-Europe Executive Committee (for 1992) is being organized in May. Questions concerning SRA-Europe should be addressed to: SRA-Europe Secretariat, Tooropstraat 34, 6813 KT ARNHEM, The Netherlands [Phone 31-85-437848; FAX 31-85-435310].

Third Conference

The Third Conference of SRA-Europe will be held December 16-18, 1991, in Paris, France. The theme of the conference is "Risk Analysis—Underlying Rationales." Planners of the meeting point out that risk analysis is being used by growing numbers of professional groups that adapt it to various topics (i.e., operational safety and reliability analysis, structural uncertainties in dose-response relationships, variability and instability of expressed values, etc.), presenting problems to decision makers who may wish that risk analysis yielded facts and figures in ways that were acceptable to the parties in their political debates and facilitated decisions. They ask what, if any, commonality is there in these and other perspectives? What are the assumptions of the various approaches to risk? Do they predispose to particular attitudes towards the acceptability of risks? Also, which institutional or national differences exist in these respects? Members and non-members of SRA who will be responding to the Call for Papers (see box) are asked to pay particular attention to these questions. Contributions are solicited from professionals in business, government, and academia.

7. 新会員紹介 (6月14日現在)

吉住 昭彦 筑波大学 社会科学系
 渡辺 信久 京都大学 環境保全センター 博士課程
 北村 喜宣 横浜国立大学 経済学部
 高田 牧男 中外貿易(株) ファイン食品本部 安全評価グループ
 白木 渡 鳥取大学 工学部土木工学科
 福田 隆文 横浜国立大学 工学部物質工学科
 中島 巖 専修大学 経済学部
 村林 正裕 (財)世界祝祭博覧会協会 事業部出展課
 保田 浩志 京都大学 大学院工学研究科衛生工学専攻
 伊瀬 洋昭 東京都立アイソトープ総合研究所 安全管理課
 井村 秀文 九州大学 工学部環境システム工学研究センター
 楠田 哲也 九州大学 工学部環境システム工学研究センター
 小幡 祐司 三菱原子力工業(株) 燃料サイクル統括部
 田村祐一郎 姫路独協大学 経済情報学部
 瀬戸口泰史 (株)富士総合研究所 解析技術部
 村上 昌俊 千代田化工建設(株) 顧問室

賛助会員

佐々木尚義 日本モンサント(株) アグロサイエンス事業部登録課
 橋本 長文 (株) リスク・マネジメント・センター
 山本 昭子 プロクター・アンド・ギャンブル・ファー・イースト・インク
 上野 悟 (財) 経済広報センター 国内広報部

日本学術会議 環境工学 研究連絡委員会

第7回環境工学連合講演会プログラム概要

1. 日 時 : 平成4年1月21日(火), 22日(水)
1. 場 所 : 日本学術会議講堂
1. 統一テーマ: ライフスタイルの転換へ向けて(案)
1. プログラム(案) (特に午前、午後のブロック内の順番は変更になるかもしれませんが、ご承知おき下さい) :

第1日 平成4年1月21日(火)

9:00

開会挨拶

9:10

化学物質のリスク管理(仮) 内山巖雄(リスク学会)
 住環境における快適性と健康性(環境教育を含む) 演者未定
 (建築学会)

10:30

休憩, 又は討論の予備時間

10:40

水環境政策(仮) 須藤隆一(水環境学会)
 地域I初級-政策の今後(仮) 成田勝彦(空気調和衛生工学)

12:00

昼食

13:00

特別講演“科学技術と環境汚染” 水見康二(大気汚染研究協会)

14:00

水環境に係わる
 パネル討論会(企画, 水環境学会)

17:00

講演終了後 懇親会(東大生研会議室予定)

第2日

1月22日(水)

未利用エネルギー問題, アスベスト廃棄物, エミタリ, サイクル問題

日本リスク研究学会第4回研究発表会 講演発表申し込み書

発 表 題 目			希望セッション a, b, c, d
氏名(ふりがな) (発表者及び連名者)	各所属	会員種別(正会員、 賛助会員、準会員)	
1. 2. 3. 4. 5. 発表者には○印			
連絡者 氏名 住所			
発表要旨：			